

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	南海トラフ大地震災害支援シミュレーション
資金分配団体名:	一般財団法人日本未来創造公益資本財団
実行団体名:	特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	宮崎県
事業対象者:	宮崎県を中心とした太平洋沿岸に暮らす方および山側から支援に向かう方

Version 3.2
日付: 2022年3月10日

I. 事業概要

事業実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 熊本豪雨災害ではコロナ禍の影響で近隣の安全地域だが他県のため動けなかった。この経験を踏まえ、南海トラフ大地震災害が想定されている宮崎県の太平洋沿岸と、山側の安全地域、熊本、鹿児島、大分など事前にネットワーク構築や緊急連絡リストの作成・共有を行う事で、災害発生直後の状況を把握し、避難や支援が迅速に行われるよう備える。 コロナ禍での災害支援の具体的な手法について、災害支援コーディネーター経験者、宮崎県内のキーマンが連携し、ZOOM会議を重ね、災害支援マニュアルを作成する。会議は録画し、編集後YOUTUBEにアップし、視聴者の意見を抽出し参考にする。 熊本豪雨災害で被災した、球磨村の「さんがうら田舎の体験交流館」、八代市坂本町の「リポーン」と連携し、同地域の復興支援を行う。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県の太平洋側は、ここ数十年大きな災害に見舞われておらず、想定していた以上に住民の危機感が薄いことがわかった。そのことを踏まえ、ネットワーク構築の中心的存在となる地域づくりリーダーと、何も起きていない平時の状態での意識を高め、いざという時のネットワークをどのように構築すれば良いのかについて議論した。まずは自分たちが過去の大災害を経験した方の話をしっかりと聞き、発災直後の動き方について理解を深め、それら会議の動画をできるだけわかりやすくホームページにまとめ、口コミにより見ていただく方、賛同しネットワークに参加する方を募って行こうという事になり、広報活動を行った。 球磨村の「さんがうら田舎の体験交流館」については、球磨川に掛かっていた橋が流され、復旧には相当の時間を要し、回り道を余儀なくされており、行くために時間が掛かる状態が続いている。住民生活はフットパスで歩きながら見ていると正常に戻っているように見えるが、災害の爪痕は随所に見られる。新型コロナウイルス、水害と二つの大きな災害に直面し、活発に行っていた都市農村交流や子どもの健全育成活動なども途絶えたままになっている。コロナの状況を見ながら、比較的落ち着いた時期にフットパスの整備を少数精鋭で行った。住民に対する説明会については、2月に予定していたため、オミクロン株の影響で中止せざるを得なかったが、現地コーディネーターの小川氏の協力により、集落の主要メンバーへの口コミでの説明を行い、集落からも今後のイベント開催などの了承を得ることが出来た。来年度から春と秋にフットパスイベントを開催する。 八代市坂本町の「リポーン」については、復興拠点づくりの一部ではあるがお手伝いすることが出来た。整備された拠点を利用した復興ボランティア活動についても、高校生が参加した無償ボランティア活動を2回、一般の方を対象とした有料のボランティア活動を1回開催することが出来た。このエリアは河川や橋、道路の復旧工事が行われているが、水に浸かった川沿いの家に関しては壊滅状態であり廃屋が目立つし、住民は帰って来れない状態である。高台にある家は全く被害を受けておらず、災害によって人口が減少した集落活動の維持が難しいと思われる。今後も長期的な支援が必要である。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
中間支援者	その他	・災害時の緊急連絡リストの作成および配布 →災害時に情報を発信できる五ヶ瀬自然学校LINE@の作成および登録者獲得	・緊急連絡リストの登録人数→五ヶ瀬自然学校LINE@の登録者数	・登録数50名	・登録数91名	ZOOM会議の動画を一般の方でも解り易く、簡潔にするために何度もやり直した。そのためホームページの完成が遅れ、ネットワーク構築のための広報活動が遅れた。目標人数はほぼ達成されたが、更に増やして行きたい。出来たネットワークをいざという時に使えるよう、定期的な情報発信を行い、新鮮な状態を保ちたい。
中間支援者	その他	・電子データによる災害支援マニュアルの作成（定期的には更新出来るよう、電子データとする）	・必要なコンテンツを網羅する ・ネットワーク登録者への配布	・コンテンツが網羅された ・100軒	・コンテンツが網羅された ・114軒	最終的にはホームページにグラフィックコード、YOUTUBE動画、文字データを使ってまとめ、ホームページのアドレスを記載したカードを作成し、今回参加した全国の委員、宮崎県内の地域づくりリーダーや公民館を含む社会教育関係者、行政、社協、防災士などに配布した。その他、広報用のチラシデータを作成しSNSで個別に配信した。
その他	その他	・ZOOM会議のYOUTUBEでの公開	・会議内容の充実 ・月1回程度の開催	・会議内容が充実した ・10回	・会議内容が充実した ・10回	月1回を全て順調に開催し編集後、YOUTUBEにアップした。更に見やすく、解り易く、その他情報も網羅するためにホームページを作成し公開した。ZOOM会議の内容については、毎回事前に講師とZOOM会議を数回行い内容の充実を図った。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ大地震が実際に起こった時、民間と行政が役割を分担しながら、全ての被災者を迅速に支援できる体制が構築されている。 過去の災害支援に学び、コロナ禍でも対応可能な災害支援マニュアルが完成し、関係者間で共有出来ている。 宮崎県、九州各県は勿論、全国の支援団体と連携できている。 熊本豪雨災害で被災した、球磨村、八代市坂本町の災害復興支援により、新たなコミュニティビジネスが創出されている。
考察等	<ul style="list-style-type: none"> 今回の過去の大災害に学ぶZOOM会議によって、民間がどのように災害情報を捉え、組織を構築し支援を行うのかが解り易くなった。災害は、規模・タイプ・場所・季節など毎回条件が異なるため、支援の方法をマニュアル化するのは非常に難しいが、今回整備したホームページと動画を見ることで、基本的な初動での対応については理解できる。後は自分ごととしてどこまでリアルに想像し、備えるかが重要。既にある行政側が整備している民間との協同のネットワークを活用し、それぞれの対象者と役割、動き方を明確にし、連携できる体制を早期に構築したい。

V. 活動

活動	進捗	概要
南海トラフ大地震災害支援ネットワーク構築	ほぼ計画通り	宮崎県地域づくりネットワーク協議会、宮崎県社会教育団体、宮崎県公民館連絡協議会、宮崎県生活・協働・男女参画課、市町村の防災担当課などとのネットワークが構築され、緊急連絡リストの作成した。LINE@を作成し91名が登録した。
ZOOM会議によるコロナ禍に対応した災害支援マニュアルの作成	計画通り	全10回のZOOM会議を行い、録画したデータを編集し、YOUTUBEにアップした。更に動画、グラフィックレコード、概要コメント、発表資料など組み合わせたホームページをマニュアルとして作成した。集会や学校などでも教材として使える。
球磨村「さんがうら田舎の体験交流館」復興支援	計画通り	4月の会合で都市・農村の交流のためのツールとして、フットパスコースづくりを行うことになり、2地域を調査し、2コースを選定。歩くコースの選定および確認、モニターツアーの開催、順路を示す道標の作成、コースのイラストマップ作製、住民への説明などを行った。来年度より本格的にツアーを開催する。
八代市坂本町「リボン」復興支援	計画通り	4月の会合で復興拠点となる施設の整備を行うことになり、9月までに整備し使用できる状態になった。それを受けて、11月、12月、1月に復興ボランティア企画を行った。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・全10回のZOOM会議については、「過去の大災害に学ぶ」というコンセプトを打ち出せたことで、活動内容がよりわかりやすくなり、一般の方への視聴はもちろん、学校教育、大学、社会教育の場の教材としても活かせる物となった。 ・全10回のZOOM会議の後半に、同じ休眠預金事業を行っているBRIDGE KUMAMOTOの村上さんを講師としてお願いすることが出来た。中間発表を聞いて本事業の講師として適任者であると思ったため依頼した。 ・さんがうらフットパスについては、非常に楽しいコースが出来た。昼食に出す料理についても改善の余地はあるが、出来る地元の方がいるので、今後の本格的なイベントの展開が期待できる。「さんがうら田舎の体験交流館」が春と秋に自主事業として開催予定。 ・リボンの復興ボランティア企画については、同じ休眠預金を活用していたアスプロジェクト福岡を通して、熊本県内の高校や大学との連携が可能となった。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍での活動」ということが全ての根底にあったが、様々な社会変化を感じている。例えば、ZOOMによる会議、FBメッセージやメール、Googleドライブ、Slackでの文字や資料のやり取りなど、オンラインツールを活用することが多くなってきた。また、コロナの感染予防対策についても、全国レベルでの対応から徐々に個別レベルでの対応に変化して来ている。コロナ禍という最も難しい局面でどう動くか？または動いたか？について考えたので、ここで得られたものは、今後起こりうるあらゆる局面に応用できるのではないかと思う。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
一般社団法人RQ災害支援センター	講師として6名が参加。今後の大規模災害時に全国ネットワークとして連携することを確認。
宮崎県地域づくりネットワーク協議会	宮崎県内の委員として4名が参加。一般社団法人RQ災害支援センターとの連携を確認。
宮崎県社会教育委員会（宮崎県教育委員会）	宮崎県内の社会教育団体に対して、ホームページ視聴および教材としての活用について広報いただいた。大規模災害時での連携を確認。
宮崎県生活・協働・男女参画課、中山間地域政策課	県庁職員および関係団体に対して、ホームページ視聴および教材としての活用について広報いただいた。大規模災害時での連携を確認。
宮崎県内市町村行政防災担当課	職員および社会福祉協議会などに対して、ホームページ視聴および教材としての活用について広報いただいた。大規模災害時での連携を確認。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,511,468	5,498,168	99.8%
	管理的経費	688,421	624,395	90.7%
合計		6,199,889	6,122,563	98.8%
補足説明	特になし			

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<ul style="list-style-type: none"> ●WEB：「過去の大災害に学ぶ」南海トラフ大地震～大切な人を守るために～ http://www.gokase.org/saigai/ ●宮崎日日新聞：令和3年7月3日「周囲の力支えに前へ」五ヶ瀬のNPOも後押し、九州豪雨あす1年、自身も被災、地元八代市の復興進める溝口隼平さん
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	<ul style="list-style-type: none"> ●YOUTUBE:南海トラフ大地震～大切な人を守るために～過去の大災害に学ぶ https://www.youtube.com/playlist?list=PL1wrINc5UOv4PpmmgQ3qhnkc-u_fWDB_h 全56本の動画公開 ●リボン：災害復興ボランティア企画のチラシ、動画4本作成・公開（同上） ●さんがうらフットパス：道標20本、コースマップ2コース×A4裏表、動画4本作成・公開 ●ホームページ広報用のカード
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	<ul style="list-style-type: none"> ●YOUTUBEのサムネール、ホームページ、チラシ、フットパスコースマップ、フットパス道標、ホームページ広報用のカード
4.報告書等	ホームページを報告書とする。

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	